エンタープライズサーバ
MP5400EX

エントリーモデル

パラレルプロセッサモデル　Mタイプ

パラレルプロセッサモデル　Lタイプ

⚠ 安全に関するご注意	正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」、「使用上のご注意」などをよくお読みのうえ、おまもりください。

株式会社 日立製作所

エンタープライズサーバ事業部	〒140-8572 東京都品川区南大井六丁目27番18号（日立大森第二別館）	(03)5471-8902(ダイヤルイン)
北海道支社	〒060-0002 札幌市中央区北二条西四丁目1番地（札幌三井ビル）	(011)261-3131(大代)
東北支社	〒980-8531 仙台市青葉区一番町二丁目4番1号（興和ビル）	(022)223-0121(大代)
関東支社	〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	(03)3212-1111(大代)
横浜支社	〒220-0011 横浜市西区高島二丁目6番32号（日産横浜ビル）	(045)451-5000(代)
北陸支社	〒930-0004 富山市桜橋通り5番13号（富山興銀ビル）	(076)433-8511(大代)
	〒920-0853 金沢市本町二丁目15番1号（ポルテ金沢）	(076)263-0551(ダイヤルイン)
中部支社	〒460-8435 名古屋市中区栄三丁目17番12号（大津通電気ビル）	(052)243-3111(大代)
関西支社	〒559-8515 大阪市住之江区南港東八丁目3番45号（日立関西ビル）	(06)6616-1111(大代)
中国支社	〒730-0011 広島市中区基町11番10号（千代田生命ビル）	(082)223-4111(代)
四国支社	〒760-0007 高松市中央町5番31号（中央町ビル）	(087)831-2111(代)
九州支社	〒814-8577 福岡市早良区百道浜二丁目1番1号（日立九州ビル）	(092)852-1111(代)

●製品仕様は、改良のため変更することがあります。
●本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

YY-691P　2001.3
Printed in Japan(H)

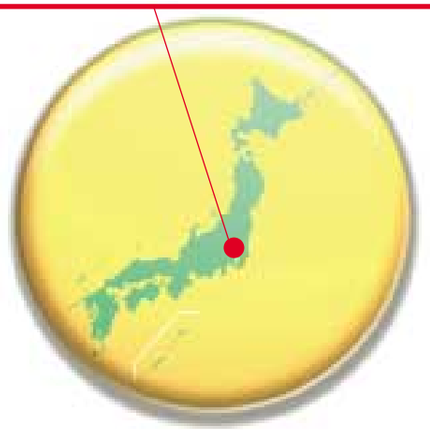
HITACHI
Inspire the Next

システム グレードアップ 事例集

エンタープライズサーバMP5400EXは なぜ次期システムに選ばれたのか。

本カタログはAdobe社Acrobatにより制作したPDFカタログです。
All Rights Reserved Copyright © 2001.Hitachi.Ltd.

技研興業株式会社



大量な型枠部品の入出庫を管理する日々のバッチ処理を高速化し、業務の効率化と営業支援を図るために、基幹システムをグレードアップ。

〔会社概要〕

会社名：技研興業株式会社
設立：1958年7月9日
資本金：11億円2千万円
従業員数：230名（2001年3月末時点）
事業内容：消波根固ブロックの鋼製型枠リース、環境保全コンクリートブロックの製造・販売など

自然の脅威から海岸線を守る消波ブロックの型枠リースで島国・日本の国土保全に貢献。

四方を海に囲まれた日本。絶えず海岸に押し寄せる波は、大きなエネルギーで岸を削り、国土を侵食する脅威でもあります。その脅威から海岸線を守るのが、鋼鉄製の型枠にコンクリートを流し込んで作られる「消波ブロック」。この型枠のリースを中心に、河川護岸用ブロックなどの製造・販売、災害防止・復旧工事などを手がける技研興業株式会社（以下、技研興業）は、豊富な実績と高度な技術で40年以上にわたり国土保全という重責の一端を担ってきました。一口に「消波ブロック」といっても、形状やサイズ別に型枠の品目は多種多様で、それぞれ10個以上のパーツから構成。合計数千におよぶ型枠パーツは全国11カ所の倉庫で保管され、その入出庫管理を中心に情報システムが活躍しています。

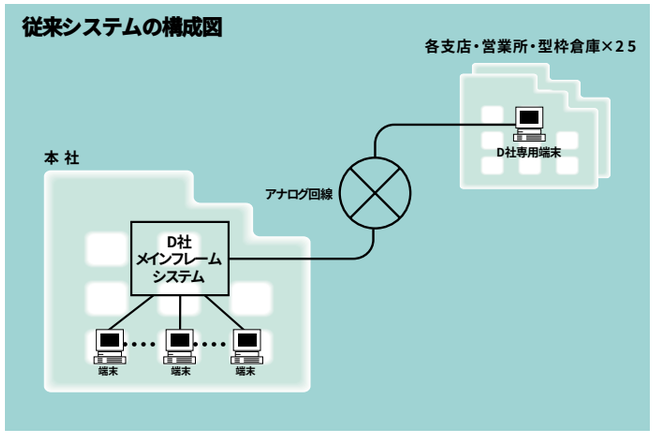
データ処理能力の不足やユーザー業務の非効率化など、性能と運用面で多くの課題に直面。

従来稼働していたのは、本社のメインフレームと全国25の支店・営業所・倉庫の専用端末で構成されたD社のシステム。全国の各拠点から送られてくる日次データを、本社のメインフレームでバッチ処理していましたが、この日次更新処理とそれに続くデータのバックアップに、およそ2時間30分もかかっていました。本社の各部門と各拠点にはそれぞれ1～2台の専用端末しかなく、スムーズな業務遂行を妨げていたほか、統計分析資料などを作りたいユーザーは、そのつど電算室に依頼しなければならない、といった非効率な状況も発生していました。ほかにも、大量の電力消費や大きな筐体によるスペースの占有など、さまざまな問題が浮上。これらを解決し、ニーズの多様化がもたらすデータ量増加への対応と円滑な基幹データ活用による営業支援を図るべく、技研興業ではシステムのグレードアップが検討されました。

従来システムの課題

- データの処理スピードが遅かった。
- MTによるデータのバックアップに時間がかかりすぎていた。
- アナログ回線だったため、データ伝送の際に回線が途切れるというトラブルが頻発していた。
- 各部署に1台の専用端末だったため、複数のユーザーが同時にシステムを利用できなかった。
- エンドユーザーが基幹データを有効に活用することができなかった。
- ホスト、専用端末とも大きな筐体でスペースを占有していたうえ、消費電力が大きかった。
- 開発環境がなく、システム開発の効率が悪かった。

従来システムの構成図



高信頼性という絶対条件。従来資産からのスムーズな移行性と複数クライアントによる自在な基幹データ活用まで、すべての要件を満たしたMP5400。

メインフレームとしての信頼性とCOBOL資産からの移行性との両立が選定のポイントに。

システムのグレードアップにあたって、信頼性を重視する技研興業では、メインフレーム中心のシステム構成を継承することに決めていました。従来のシステムを開発したD社の提案では、それまで専用端末で活用していたCOBOLのプログラムが使えなくなり、新たなプログラム開発が発生。一方、日立のMPシリーズを核としたシステムプランでは、COBOLによる従来のプログラム資産をスムーズに移行することができ、各拠点へのWindows NT®サーバ導入によるLANの構築で、クライアントを専用端末からパソコンへ変更することもできました。何よりも従来のプログラム資産をスムーズに移行できること、そして、高い信頼性と優れた処理能力、基幹データを有効利用できる点などが評価され、日立のMP5400が基幹サーバに選ばれました。

MP5400を選んだ理由

- ●COBOL資産を活かしてシステム開発・保守が行える移行性。
- ●安定稼働による高い信頼性と優れたデータ処理能力。
- ●DAT装置による高速バックアップが可能。
- ●エンドユーザーがパソコンから基幹データを活用できる環境。
- ●消費電力の低減と設置スペース縮小による設備コストの削減が可能。
- ●各種自動化機能による運用経費の削減が可能。

データ処理能力の大幅な向上と全社規模での情報環境改善でトータルな企業競争力強化に成功。

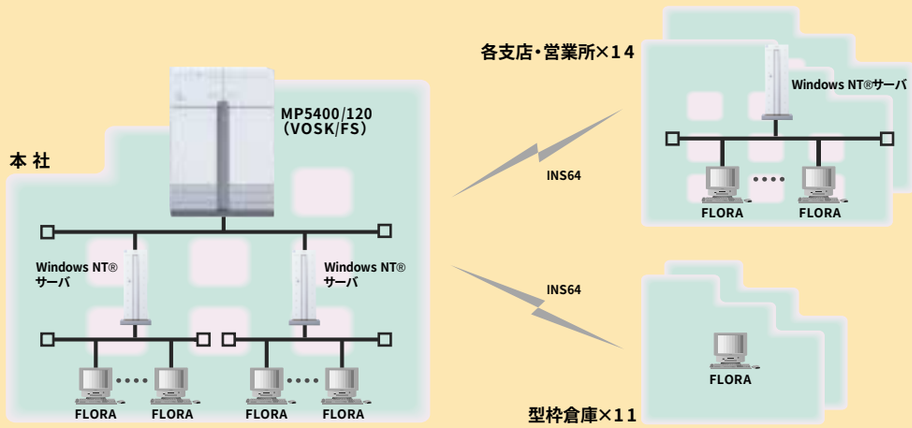
処理性能に優れたMP5400を導入した結果、日次更新処理とそれに続くバックアップの所要時間が半減。それに伴いシステムの利用時間を確保できたほか、LANで繋がれた複数のパソコンからシステムを利用できるようになり業務効率が飛躍的に向上しました。また、基幹データベース検索ソフトウェア「DBPARTNER2（デービーパートナー）」の導入により、各パソコンからの基幹データベース活用も実現。営業活動をサポートするスピーディーな情報分析が可能になりました。さらに、消費電力の低減や省スペース化、電源の投入・切断やデータ伝送などの自動化によるTCO*の削減、開発環境と運用環境の両立によるメンテナンス性の向上なども実現した新システムは、総合的な企業競争力の強化をもたらしました。技研興業では今後、本社・拠点間でデータのリアルタイム処理を目指すほか、決算の連結対象である2つの関係会社と経理情報や営業情報などを共有するためのイントラネット構築も視野に入れています。

＊TCO:Total Cost of Ownership

MP5400による効果

- ●日次データ更新処理とバックアップに要する時間が従来の約1/2に短縮された。
- ●TCP/IP準拠のINS64が利用可能となり、データ伝送の際のトラブルが解消した。
- ●各拠点、部門内に構築したLANで、同時に多くのユーザーがシステムを利用できるようになった。
- ●エンドユーザーが基幹データベースを活用できるようになった。
- ●消費電力の低減と省スペース化、各種自動化処理により、TCOが削減された。
- ●運用環境とは別に開発環境を持つことができ、システム開発・保守業務の効率化が図れた。

＜システム構成図＞



●本システムは、株式会社日立情報システムズの協力により開発されました。